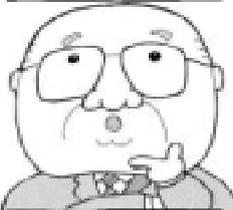


第4章

公開授業・公開検討会

平成16年度山形大学教養教育改善充実特別事業

公開授業 & 公開検討会



〈公開授業〉

日時 平成16年6月4日(金) 14:40~17:40

授業名 一般教育科目 総合領域 教養セミナー

「山大マインドー先輩の話を聞いてみよう!ー」

授業者 仙道 富士郎 学長

講師 ペーパークラフト作家 赤間 達弘 氏(理工学研究科修了)

教室 山形大学教養教育1号館2階 127番教室

〈検討会〉

日時 平成16年6月4日(金) 17:50~18:50

会場 教養教育1号館2階 128番教室

内容 上記の授業を参観後、当該授業に対する検討を行う。

高等教育に関心のあるみなさまの参観を、心よりお待ちしております。

主 催：山形大学高等教育研究企画センター・山形大学教育方法等改善委員会

共 催：地域ネットワークFD「樹水」

お問合せ：山形大学学務部教務課教育企画係 (023-628-4707)

第4章 公開授業・公開検討会

はじめに

山形大学の教養教育では平成12年度から大々的な「公開授業&検討会」を開始し、平成14年度に一度空白があったが、平成15年度から再開し、継続して実施している。1回目は生物学、2回目は歴史学、3回目は英語で行ったので、今回は教養セミナーで実施することとなった。

今回、授業を公開し検討会の俎上に上っていただけたのは山形大学長の仙道富士郎氏である。学長は平成13年に本委員会が主催した『FD合宿セミナー』に一般参加者として参加され、参加者（山形大学教員）の教育にかける情熱に衝撃を打たれた。学長は自ら授業を行い学生に直接触れることを望んだ。こうして、教養教育の一般教育科目総合領域の中で教養セミナーの授業として平成14年度の後期に『ようこそ先輩』を開講した。翌年からは、開講学期を前期に移動し、授業名称も『山大マインド』に変更した。今年度で3回目の授業となるが、開講時期や名称が変化したのは、この授業が始まってから実施しているミニ公開授業&検討会で出てきた意見の反映である。ミニ公開授業&検討会を通して、学長の授業は進化してきたのである。こうした前段階を踏まえて、学長には今回の大々的な「公開授業&検討会」にお出まし願ったというわけである。学長にはこの場をお借りして感謝申し上げます。

今回の公開授業&検討会は、新規な点がもう二つある。一つ目は、山形県内の大学・短大が連携してFDを行う「地域ネットワークFD“樹氷”」との共催事業になった点である。これによって、県内の大学・短大の教職員のうち何人かが始めて「公開授業&検討会」を見る機会に恵まれた。

新機軸の二つ目は、今回の授業をインターネット上で動画配信した点にある。これは、我々が以前から構想しているWebFDの一環である。初めての試みであったが、未然にお知らせしておいた大学以外でも、多くの方々がインターネット上でこの公開授業&検討会をご覧になられた。この配信をご覧になった何人かの方々からポストアンケートをいただいたが、なかなか好評だったようである。今回の動画配信については、山形大学学術情報基盤センターのお力を借りた。

山形大学の「公開授業&検討会」の方法は、我々が気づかないうちに全国的にかなり知られるところとなってきた。その中には、小樽商科大学や福島大学のように山大方式で実施する大学も登場してきた。では、山大方式とは何かと言うと、それは「ミニ公開授業&検討会」を実施する人たちに配布される「ミニ公開授業・検討会」を実施するに当たっての留意点」に書かれている内容である。それは本報告書にも掲載してあるので、そちらを参照していただきたい。

山形大学で「公開授業&検討会」が開始されて5年目となるが、この歴史の中でもっとも誇らしく、嬉しかった出来事は平成14年度から開始され、現在も継続されているドイツ語集団の「ミニ公開授業&検討会」である。これはどこから指示されたわけでもないのに、ドイツ語の教員が自主的に始めた勇気ある取組である。こうした取組と関係者の熱意により、「学生による授業改善アンケート」の評価が上昇している。

今回、3年間に渡るドイツ語の取組を、その改善を中心となって進めてこられた人文学部の渡辺将尚講師にお願いして、記録にとどめておくことにした。

ドイツ語FD活動の現状と課題

学生の学力低下やモチベーションの低下が指摘されて久しい。我々ドイツ語担当者も、数年前1年間で消化できていた内容が今ではこなせないなど、この現状を実感せざるを得なくなっている。そこで、我々は、これまで通り普通に授業をし試験を行うだけでは、初修外国語教育の意味が空洞化してしまうとの共通の危機感をもち、教官側からのスタンスとして、ドイツ語教育改善の取り組みを開始することにした。教官が先が変わることで、学生の意識を向上させようというのがねらいである。ここでは、この3年間にドイツ語担当教官の間で行ってきたFD活動を紹介し、今後の課題についても考えたい。これらの取り組みが、ある種の問題提起となり、広く今後の議論のきっかけになればよいと思う。

1. ドイツ語FD活動の現状

1) 「ミニ公開授業・検討会」の継続的实施

「ミニ公開授業・検討会」は、授業者があらかじめ声をかけておいた数名の教官に授業を公開し、その後その授業について意見交換を行うものである。あらかじめ声をかけておくという性質上、参観者はほぼドイツ語担当者に限定される。自分の授業を、しかも同じドイツ語を担当している教官に見せるのはかなりの抵抗がある。また、初修外国語は、すべて同じ時間帯に開講されており、他の教官の授業を参観する際には、自分の授業を休講にするか、そうでなければ課題を与えておくなどの配慮を行わなければならない事情もある。（ほとんどの教官が休講にせず、課題を与えている。）しかし、我々はこれをドイツ語教育改善の柱と考え、毎年3件～4件を目標に実施している。この割合でいけば、各教官がおよそ3学期に一度のペースで授業を公開することになる。つぎの表は、これまでの実施件数を年度ごとにまとめたものである。

「ミニ公開授業・検討会」実施状況

平成14年度		平成15年度		平成16年度	
前期	後期	前期	後期	前期	後期
	3	2	2	2	2

単位(件)

「ミニ公開授業」では、普段どおりの授業をすることになっているが、実際のところ授業者は、自分の授業の特徴をうまく発揮できるよう、公開するクラスを決め、日程を設定する。授業を公開する教官の中には、教案または授業計画を作成し、参観者に配布している者がいる。教案または授業計画には、授業者の理念や方針が表れており、それだけで貴重な情報交換の材料となる。

我々の目的は、授業者の教授法の欠点を指摘し、改善させることではない。「ミニ公開授業・検討会」は、授業者がそれぞれ自分の特徴を存分に発揮するような授業をし、他の教官と比較する場である。教養教育において「ドイツ語」と名のつく授業はどれも、結局は「ドイツ語」という同じ素材を扱うことになるが、そこへのアプローチの仕方は教官によってまったく異なる。授業を参観しながら、「自分ならこの場面でのどのような説明方法をとるか」などについて考えることに大きな意義がある。

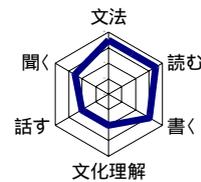
2) シラバスの改訂

英語と異なり、初修外国語は、学ぶ目的が学生にとって見えづらい。学生は、具体的に何をどこまで学べばよいのか分からない。このような点をはっきりしないまま、今の学生を半年ないし1年つなぎとめておくことは非常に難しい。

我々は、教養教育シラバスにドイツ語共通のページを1ページ追加し(2004年度「教養教育シラバス」239ページ)、学生がどの方面で、どのような力をつけたいのかを明示するようにした。初めからできるだけ高い目的意識をもってもらうためである。ドイツ語は、一部の学部を除いて、同じ授業時間帯にそれぞれタイプの異なる授業を3種類開講している。読解力の向上を目指すA、会話も含めた総合的運用能力の向上を目指すB、深い文化理解を目指すCの3つである。(ただし、どのタイプの授業でも、ドイツ語の文法を十分に学ぶ点は共通。)学生は自分の興味にもっとも近い授業を選択し、その授業で設定された目標に向けて学習を続けていくことになる。もちろん、この目標はひとつの目安であり、それ以上の努力をしようとする学生を妨げるものではない。たとえば、Aのタイプの授業については、シラバスではつぎのように説明している。

Aコース：ドイツ語基礎

+

文献を読むための読解力

Aコースでは、文法を初歩からていねいに学習して、最終的には辞書を使ってドイツ語の文章を自分で読めるようになることを目指します。ドイツ語の基礎を重視したクラスです。

さらに詳しい説明は、各授業のシラバスにおいて行う。同じAのタイプの授業でも担当教官が異なれば、内容もまったく異なるものになる。各シラバスは、個々の授業の特徴も最大限に伝わるように作成する。

個々のシラバスでも目標を明確にする工夫を、複数の教官が行っている。あるまとまったドイツ語文を載せ、それを学期または1年間の目標として提示するのである。かなりの学生がそのドイツ語文を読解することができ、読めたことに大きな満足感を感じる学生も多い。以下は、ある教官の前期のシラバスの一部である。

ドイツ語IA2

German IA2

担当教員:

担当教員の所属:

開講学年: 1年2年,3年,4年 開講学期: 前期

単位数: 2単位

開講形態: 演習

【授業概要】

・テーマ

発音から始めて、だんだんと文法に入ります。文法中心に読解力を特に鍛えたいと意図していますが、しかし暗記のための、そして単位のための授業は小生が最も嫌うものです。ドイツ語の学習を通して広くドイツ(語圏諸国)に目を開いてもらえるような授業にしたいと思います。

・ねらい

これまでの外国語(英語)学習とは違うところの、教養のための、よい人格形成のための、そしてドイツ語文献なども辞書を用いて理解できるところの能力涵養のための土台を構築できるようにしたい。

・目標

以下のレベルのドイツ語文を辞書を使用して理解できること。

Herr Keuner macht eines Tages

einen langen Spaziergang. Er steht in einem Tal. Er bemerkt ploetzlich, dass seine

Fuesse im Wasser liegen. Das Tal ist in Wirklichkeit ein

Meeresarm. Und es ist die Zeit der Flut. Herr Keuner schwimmt sehr schlecht.

Aber das Land ist sehr fern. Es gibt keinen Kahn. Er verliert die Hoffnung. Endlich fasst er einen Entschluss. Er beginnt das Schwimmen und schwimmt er gut. Er selbst ist ein Kahn.

昨年度の学生諸君(人,理)は7月頃には大体これを理解しました。

ドイツ語部分は強調表示している。
教官名および所属は削除した。

3) その他

上に挙げた以外にも、各教官が個別に取り組んでいる事柄がある。

我々の目的は、授業の質を上げ、学生のモチベーションを喚起していくことであるが、その際、コンピュータやインターネットも大きな役割を果たしうる。これによって、授業での学習効果を上げていくことができるし、これらの機器を授業に導入することは、それだけで学生のモチベーションに訴える効果がある。この方面での教育が、どれだけの成果をもたらすのか、現在さまざまな可能性を模索している。

学生のモチベーションを高めると同時に、学習した事柄を実際に使用する機会が提供できれば、学生をより継続的にドイツ語に引きつけておくことが可能になる。ある教官は、ドイツ語圏でのホームステイをこれまで2度企画し、合計15名の学生を、それぞれ約10日間ずつドイツに滞在させた。たった半年や1年の学習でも、それを使いこなすことができれば、現地で相当なコミュニケーションをとることができる。ドイツに滞在した学生たちも、十分このことを理解し、教養教育で学習したことは無駄ではないことを認識した。

2. F D活動の結果と今後の課題

1) F D活動の結果

ドイツ語の受講者は、現在増加傾向にある。平成15年、16年ともに、全学部あわせて700名を超える学生がドイツ語を履修している。この中には再履修の学生が含まれているものの、単純計算で1年次学生の約40%がドイツ語を履修していることになる。「ミニ公開授業・検討会」を恒常的に始めたのが平成14年、シラバスの改訂が平成15年であるから、ある程度の相関関係はあると思われる。受講者数ですべてを測ることはできないが、ドイツ語またはドイツ語の授業に対する興味を確実に喚起できていることは確かであろう。

専門教育のほうでも変化が出始めている。2年次以降ドイツ語を継続して学習しようと思えば、人文学部開講の専門科目に参加するしかないが、人文学部以外の学生の場合、単位が認められない。しかし、平成16年度には、

理学部の複数の学生が、単位が認定されないことを承知の上で、いくつかのドイツ語・ドイツ文化・ドイツ文学関係の授業に参加した。

2) 今後の課題

何かを推進していくと、マンネリ化してしまい、その効果もだんだんと頭打ちになってしまうことがよくある。FDも同様である。しかも、今の学生にとっては、教官がFDをするのはあたりまえであり、言ってみれば入学した時からFD慣れしている。FD慣れした学生の要求は、当然のことながら年々高くなる。我々は、それらの要求がドイツ語教育に資するところがあるのかどうかを真摯に議論し、どれだけ答えるべきかを決め、答えない部分に関しては、なぜ答えられないのかを学生に説明し、納得させる努力をしなければならない。

教官もまたFD慣れする危険がある。ドイツ語のFD活動が日常的なものになることは、学生にとっても大きな利益をもたらすが、その一方で恒常化と形骸化は表裏一体のものでもある。ドイツ語のFD活動が形だけのものにならないよう、成果を常に点検し、修正を加えながら進めていく必要がある。

1 公開授業・公開検討会



公開授業・公開検討会 日程

【公開授業】

- 日 時 : 平成 16 年 6 月 4 日 (金) 14 : 40 ~ 17 : 40
 講 義 室 : 127 番講義室(教養教育1号館2階)
 授 業 名 : 山大マインド - 先輩の話を聞いてみよう -
 (教養セミナー)
 担当教員 : 仙道 富士郎(学長)
 担当講師 : ペーパークラフト作家 赤間 達弘
 (平成 12 年 理工学研究科修了)

【公開検討会】

- 日 時 : 平成 16 年 6 月 4 日 (金) 17 : 50 ~ 18 : 50
 会 場 : 128 番講義室(教養教育1号館2階)
 次 第 : 17:50 開会のあいさつ
 17:55 授業の報告
 ・教員の観察(5分)
 ・学生の観察(5分)
 ・授業全体の流れ(5分)
 18:10 授業者の意見(5分)
 フリートーキング
 18:50 終了

公開検討会記録

出席者

- 授業者 仙道 富士郎 学長
 担当講師 赤間 達弘
 (平成 12 年理工学研究科修了)
 司 会 小田 隆治 委員
 観察者 授業者観察 丹野 憲昭 委員
 学生観察 元木 幸一 委員
 参加者 尾方 隆司 委員, 中村 三春 委員
 人文学部 立松 潔 教授
 教育学部 平田 俊博 教授
 山形県立保健医療大学 八木 忍 教授
 山形短期大学 小田 良子 教授
 伊藤富貴子 総務課長

山大マインド受講学生

- 人文学部 小川 勇喜
 医 学 部 野間 未知多, 岡田 弘明
 工 学 部 半澤 孝典
 学務部 教務課長, 教務課課長補佐,
 教務課教育企画係長, 同主任, 同係員

司会(小田) それでは、公開検討会を始めます。早速、丹野先生から、授業者観察の報告をお願いします。



丹野 講義形式の授業と異なり、難しいものでした。

まず、14 時 41 分に学長から講師の紹介がありました。講師が若いことを強調され、ペーパークラフトの世界では、日本で一、二を争う技術をお持ちだという紹介がありました。

43 分に、赤間さんにマイクが渡されました。笑顔で話をされて、最初に「相手の目を見れば分かる」と、学生に印象づけていました。まず、昨年度の講義録を読んでいるか、講義録が配布されているか確認されました。続いて、昨年度の講義録を基に手厳しい批評をされて、学生に強烈な印象を与えていました。

52 分に、山形大学に入学したことを不本意だと言う人が多いが、それは考え方だ。不本意を本意に変えるのは、自分の努力次第だと話されました。

15 時から、ペーパークラフトとはどういうものかという話に入りました。3 分に板書、4 分に本の紹介がありました。32 分に、配慮がいかにか大切かというお話しをされ、自分もいろいろな配慮をしているという話がありました。

講義中一貫して、アルバイト、恋愛、サークルが大切で、それを活かすために、山形大学のゆとり教育がいかにか大切かという話をされていました。最後に人生の終着点について話され、16 時 6 分に前半が終了しました。この後、班ごとのディスカッションに入りました。

29 分からの全体会では、不本意入学について取り上げられました。34 分に学長から、「実際には自分で分かるしかない」というコメントがありました。48 分にも学長から、「簡単に分かるな」という学生の質問を引き出すコメントがありました。このあと学生同士のやりとりがあり、17 時 30 分にも学長からコメントがありました。学生同士のやりとりに対するもので、適切なコメントでした。34 分から、赤間さんは強烈な個性の持ち主で、荒っぽい言葉だが、それはいっぱい生きていくからだという、学長のまとめがありました。ただし、無理をするなというねぎらいの言葉もあり、ゆとりのあるやりとりで、コメント内容も適切でした。

司会 続いて、学生の観察報告を元木先生お願いします。

元木 14時39分学長入室、この時点で学生は32人、学生以外の方は18人でした。14時43分から赤間さんのお話しが始まりましたが、学生は誰も寝ませんでした。普通、このくらい長い時間の講義で、学生が寝ないのは奇跡です。これは、本人のパワーがすごいということです。

私が気付いたこととして、何故か学生が学長と同じ左側にたくさん座っていたので、必然的に、講師の話す方向が決まっていました。また、せっかく作品をお持ちなのだから、資料提示装置を使って見せていただいた方が良かったと思います。これは、こちら側の不備ですが。

それから、冒頭で昨年のお話をされ、「こういう学生はダメだ」とおっしゃっていたのですが、ややもすれば、学生が悪い方向に流れるかなと反感を覚えました。最後で救っているのが良いのかもしれませんが。学長がしばしば介入していましたが、タイミングの悪いコメントは、昨年より減ったと思います。今年は女子学生が5人で、男子学生が圧倒的に多くなったのは何故でしょう。

最後に、学生の質問に対する二の手、三の手がない。せっかくだから質問を続けて行けばいいのにしない。満を持して学長が入るという形でしたが、あれはいかがなものでしょうか。学生の質問が赤間さんに誘導された場面があり、学生は不安そうに学長を見ていたのですが、学長はそっぽを向いているということもありました。

司会 それでは、私から全体観察の報告をします。赤間さんは学生に伝えたいことを持った、メッセージ性のすごく強い人だと感じました。言葉は乱暴ですが、あれは学生に近い言葉なのでしょう。我々では伝えられない内容で、しかも伝えたいことが濃厚で、うらやましいと思いました。あのペースで1コマしゃべって帰ったら「あの人は、何なんだ？」となるのを、2コマ続きのところで学生も話をして、解りきれたということなのでしょう。

赤間さんが示された本を、学長がヒョコヒョコ取りに行くというのは、仙道学長のお人柄であって、非常に良い印象を与えました。話合いの際に、これまでの講師が話したことを順位付ける場面がありましたが、学長は6回通して見ていたという立場で返していました。全体として、良い講義でした。

続いて、授業者の仙道学長をお願いします。

仙道 この授業は、講師のインパクトの強さに、90%以上依存している授業だと思います。今日は、講師の話が終わってから後半の質問までの時間が長かったのですが、前半がシリアスな内容だったので、そういう問題について普段考えている人は少ないのか、質問事項をまとめるのに、非常にとまどっているようでした。特に「恋愛は量か質か」という質問をした班は、ずっと質問事項をまとめきれないようでした。今日赤間さんが提起した問題は、それだけ、日頃慣れ親しんだ問題ではないということで、学生諸君には良い効果があったのではないかと思います。それは、最後に、自分に話をさせてほしいと話し始めた学生のところで最高潮に達したようでした。いずれにしても、赤間さんに全部助けられた授業でしたね。



司会 後半を班ごとの活動に変えられたようですが、今までと異なって、活発になったということはあるですか。

仙道 それは学生によって異なると思います。今年は、昨年より10人少ないのですが、活発な学生が多いですね。今までより安心して見ていられます。今年の後半の講義形式は、人文学部の立松先生に作っていただいたのですが、それが効果を上げているのでしょう。昨年のこの授業のミニ公開検討会では、中村先生から「あれでは授業と言えない」という厳しい指摘を受けたので、今年こそはと工夫を重ねています。しかし、実際には、前半の熱演が効いているのだと思います。

司会 学長は、この授業の公開授業を3年連続でやられています。そして公開検討会で受けた指摘に対して、毎回毎回リベンジされています。それでは、赤間さんいかがでしょう。

赤間 個人的に、学長のふんぞり返るスタイルが好きです。学生が、こちらの思った通りに動いてくれるのか、心配でした。昨年は、学生の反応がそれほど良くなく、こちらから入っていったところもありましたので。

司会 この授業の講師で、2年連続という方は珍しいんです。赤間さんは、学生のことをよく分かっているということです。それでは、参観者の皆さん、お願いします。

尾方 毛色の変った授業で、1つの講演のようでした。学生と同じ目線で含蓄のある話をされるのは、さすがだと感心させられました。社会に出てからは専門的裏付けが必要だということについては、学生にインパクトを与え、ポテンシャルを高めさせる内容だったと思います。

含蓄のある内容を印象づけるためには、起承転結に注意された方が良いと思います。配慮のない奴はクズだという話が出ていましたが、机の上にズックを載せている学生にはガッカリしました。それから、せっかく資料の本をお持ちなのでしたら、公開していただきたかったと思いました。

赤間 貴重な資料も含まれていたもので、学長にだけお見せすればよいと思っていました。

尾方 それであれば、公開できる資料だけにした方が良くないでしょうか。

赤間 昨年初めて担当して、気合いを入れすぎて、まとめた内容になりすぎたので、今年は違った展開にしたいと思って来ました。

仙道 昨年と全く重なりを作らないのは素晴らしいですね。

司会 それでは、学長の宿敵、中村先生をお願いします。

中村 赤間さんのお話については言うことはないですね。私も、学生と同じ立場で身につまされました。先ほどもありましたが、ダメな学生という決めつけや自慢話のような内容は、我々教員がやったら問題ですが、今回のような場合には許されるでしょ

う。聞いた内容については、私も驚くことばかりでしたので、このハプニングの重さが、学生にとっては良かったのではないのでしょうか。bigmouthも裏付けがあったのだから良いと思います。我々があれを真似たら、とんでもないことになりますけど。

学長については、昨年よりも努力の跡が見られます。この授業は、講師の話聞かせて、学生に受け入れさせるのがポイント。班ごとの討論は当然のやり方ですけど、討論の意味があるのか。効果が上がっていないのではないですか。討論の内容が、質問事項に活かされているのでしょうか。

仙道 効果はあると思いますよ。実際に討論している学生の中に入っていくと感じます。特に今日は、最後までまとめきれない班もありました。あれは班の中での煩悶があるということです。咀嚼するまでの1つのプロセスとして見ると、意味があると思います。あれはあれで良いと思います。取りまとめの役割を果たす人がいると良いんですが、質問をするまでに集約するのが難しいみたいですね。

中村 班討論のプロセスが面白いのであれば、経緯も含めて発表させれば良いんです。班討論の中身を授業に反映させなければ、意味がないんじゃないですか。

仙道 言い訳になりますけど、この前までは非常に活発にやっていたのに、今日のテーマは、学生がフォローしきれていない。1つの班は、最後までまとめきれなかった。彼等にとっては、非常に重いテーマだったんだと思います。これまでの4回は、ディスカッションが進化してきたんですけど、今日は無理ですね。赤間さんの提示したものがかなり重いので、それを把握するものを、学生達は持っていないんだと思います。



司会 班討論の意味があるのか、回を重ねて進化してきているのか、当事者である受講生の方達に聞いてみましょう。

学生 班討論すると、誰かが話をするし、自分はこう考えているんだけどと話せます。集約するのが難しいこともありますが、班討論には意味があると思います。

今日の話は、正直、のど元に刃を突きつけられたような感じで、身につまされることばかりでした。最後までまとめられなかったのがうちの班なんですけど、どういう質問をしようか、怒られたらどうしよう、こてんぱんに言われたらどうしようと思っているうちにまとめきれませんでした。

学生 一人一人に「質問したい人はどうぞ」というより、班の中で一応のディスカッションができるので、良いと思います。班討論をすることによって、質問の質が深まったり、核が鮮明になったりして、より良い質問につながります。自由にやりやすいので、班討論があった方が良いと思います。

学生 グループごとにやった方が積極性が増しやすいと思います。全体の中では、1人だと手を挙げにくいんですけど、グ

ループの中だと意見も出るし、内容について他の人と話せるので、深みが出てくると思います。

中村 やりやすい、やりにくいということではないでしょう。最後のフットサルの彼なんかは、班討論の中から出てきた訳じゃないでしょう。班討論をやると、きれいな質問にまとめられすぎて、きつい質問はその時点で消えてしまうでしょう。班討論の内容を目に見える形で導くのが、教員の仕事じゃないですか。

赤間 班の学生の準備が少ないですね。事前にやってきているようだったら、もっと別の切り口があったんですけど。



司会 それでは、この授業の班ごとの討論を企画された、人文学部の立松先生お願いします。

立松 昨年のミニ公開授業も見せていただいたんですが、学生が質問するのを躊躇するんですね。いきなり全体会の場で質問すると、自分が浮くんじゃないかと。班の中で討論させると、みんな同じなんだと安心する。その中で、より深まることもあるし、見当違いだったかなということもあるかもしれませんが、その上で全体会に臨んだ方が良いでしょう。

私も、この山大マインドと同じ時間帯に、学生のグループ作業と全体会という構成の授業をやっているのですが、最初から役割を決めてあるので、グループ作業はかなりうまくやっています。自分がのけ者になったようで、寂しいくらいです。1年生の授業の場合、学部がバラバラで、授業時間以外に集まるのは難しいので、授業時間中に討論の時間を設けないとならないようです。30分という短い班討論の中で効果を上げられるかということはありません。

この授業の難しいところは、毎回講師が変わって、個性が豊富なこと。学生達もその都度違ったものを感じるとは思いますが、全体会にそれを出すのは難しいと思います。授業者が口をさむのも難しいのですが、今回は工夫されていたんじゃないでしょうか。こういう授業のやり方は、経験を積み重ねるしかないと思います。

仙道 中村先生のおっしゃることも分かりますが、立松先生に作っていただいた、30分のグループ作業、全体会1、10分のグループ作業、全体会2という方式は、後半が深まるような気がします。このような2段階方式の方が、学生の考えを引き出すのには良いでしょう。

司会 今日は、他大学からも参観の先生がお見えになっています。まず、山形短期大学の小田先生お願いします。

小田 山形短期大学の小田です。初めて参加させていただきましたが、赤間さんのお話には感銘を受けました。どうしたら言葉に重みを持たせられるかと授業改善を行っています。公開授業については遅れを取っています。早速帰って報告し、どのように立ち上げていくか考えていきたいです。ありが

ありがとうございました。

司会 山形県立保健医療大学の八木先生、お願いします。

八木 初めて参加させていただきましたが、すごく良いものでした。講師の強烈なキャラクターで、学生にとって一番眠くなる時間帯にも関わらず、一生懸命学ぶ姿がありました。講師のメッセージがよく伝わって、生き生きとやっていたのが強く印象に残りました。

司会 教育学部の平田先生、どうぞ。

平田 普通の講義と異なり、面白い授業でした。よく、今の時代、「指導」から「支援」に差し掛かって来ていると言われますが、大学もそろそろ「支援」かなと感じているところです。その点、今日の授業は、ある意味、支援教育の典型ではないかと思えます。何故勉強しなければならないか。新入生に動機付けするというのは、出発点の学生に相応しい内容だと思えます。

司会 私も少人数の班討論をする授業をいろいろ見っていますが、学生の皆さんに聞いてみたいと思えます。この授業を受講して、何か学ぶものはありますか。他の授業と違うものはありますか。



学生 この授業は、山大に入って、1週間のうちで一番楽しみにしています。なぜ受動的なのか。他の講義は難しいことばかりで、聞きたいことがあっても10分間の休みしかなくて聞けない。この講義は、いろんな質問ができて楽しいです。先輩たちの考え方、生き方まで聞ける。山大マインドって、そうか、そんな考え方かって思えて、すごく楽しいです。学ぶ幅が広がる授業だと思います。

学生 知識を詰め込む高校の勉強と違って、ここは自分の生き方を考え直すことができたり、大学生活をどうして行こうか考えさせられて良いです。他の講義は、先生に向かって自分の意見なんて言えません。自分の考えを相手に伝えることが大事だということが分かって、大学の初めの一歩には、すごく良いと思えます。

学生 1週間で一番最後の時間ですが、とても楽しみにしています。中でも一番楽しみにしているのが、学長直々のコメントをいただけるレポートです。例えば、討論はこうやったらといったコメントをいただきます。普通、学長なんて、大学のどこにいるのかも分からないのに、こんなに身近に感じられて、頑張らなきゃというやる気が出て来る原動力になります。知識だけの講義では聞けない、学ぶことの原動力がどこにあるのかを探ることができる授業です。

赤間 今回のレポートを取っておいて、来年読んでみれば良いですよ。自分も、何故勉強しなければならないのかという疑問を綴ったレポートに先生からコメントしてもらったものを、今で

も取ってあります。自分の成長を感じられるので、来年まで取っておいて、読んでみたらいいと思います。

学生 2年生の先輩にも、山大マインドは良い授業だから取った方が良くって進めてくれる人がいました。

学生 僕は、高校生の時にインターネットで山大マインドのシラバスを読んで、山形大学に入学したら、是非取ってみたいと思っていました。高校では、山大に入ると言ういろいろな言われましたが、恩師からは「山大は良いよ」と言われ続けました。入学したらこういう授業で、先輩方の話を聞けて、とてもうれしいです。そうしたら、高校に行くと、今度は自分が「山大は良いよ」って言っているんです。僕は山大が好きです。

司会 それでは最後に、授業者仙道学長をお願いします。

仙道 先ほど、平田先生から「支援教育」というお話がありましたが、そういう位置付けが、これから一番大きなファクターになって行くんでしょうね。先輩 - 後輩のリレーションシップが、一つの間人関係の中で成り立っている。この授業は3年目ですが、学生が憤然としたということは一度も経験していません。しかし、少しずつ成長してきていると思えます。

司会 学長は、この授業を毎年公開されています。この検討会を踏まえて、年々良い授業になってきていると思えます。それでは、公開検討会を閉じたいと思えます。長時間に亘ってありがとうございました。



公開授業・公開検討会アンケート結果

設問1 今回の授業の感想を自由に記述してください。

設問2 今回の授業を公開・参観して、御自身の授業をどのように振り返られましたか。何でも、自由に記述してください。

設問3 公開授業・検討会はいかがでしたか。何でも、自由に記述してください。



授業参観者のアンケート

参観者1：人文学部

設問1について

自分の授業終了後の参加のため、参加が遅くなりましたが、講師(赤間さん)と学生の垣根が低くて、インパクトのある授業になっていたと思います。

講師を呼ぶ、学生参加型のむづかしい授業にもかかわらずうまく機能していたと思います。学生のグループでの議論の成果がそれなりに反映していたのでアドバイスした者としては一安心でした。

設問2について

グループ討論(班討論)を行っているとは学生は結構生き生きとしていて、教師の側はのけ者になったような気になるほどである。課題はこの「生き生き」の成果をどう全体会(授業全体)に生かしていくかということである。実はこれがむづかしい。まだ歴史の浅い、そういう意味では先駆的な取り組みなので、さらに試行錯誤を重ねる必要を痛感した。こういう公開授業はその意味でとても有意義だった。

設問3について

学生が参加して意見をきちんと述べるのには非常に感心した。学生の参加は初めての試みだと思いましたが、良かったと思います。

参観者2：人文学部

設問1について

講演者のパワーに学生が飲み込まれている。学生には刺激になり面白く、有益な授業だったと思う。

いずれにしても、講演者も学生も誠意をもって対応していた。授業者の介入が良いことも、ちょっとその誠意という点で問題があるのではないかという点もあった。

設問2について

自分の授業の参考にならない。

設問3について

教師観察、学生観察はこのような授業では難しいような気がする。

参観者3：教育学部

設問1について

・学生がのびのび発言しているのに感心しました。

・授業担当者の聴く力に、また、じっと立ち続けられている御姿に感銘を受けました。

設問2について

・学生に発言させる機会をもっと増やしたいと感じました。

・学生から発言を引き出すスキルを磨かなければいけないと感じました。

設問3について

知識伝達型の講義の模範例を示していただきたいと思いました。



参観者4：教育学部

設問1について

1. 大きなお茶のみ会のようなイメージでした。

とりあえず学生に自己表現の機会を与えるという点では意味があると思いました。

2. 「何いってんだ～」という講師への異論や批判が少なく、あっても水かけ論のような形になるのは許容範囲なのでしょうか？

設問2について

個人的には、こういう抽象的でウエットな議論はゼミのあとの飲み会は別にして、苦手だなと思いました。

設問3について

お疲れさまでした。

学生が、事実として生き生きとしていました。

よい授業なのだろうと思います。

資料にこの授業の到達目標の資料があれば...と思いました。

参観者5：理学部

設問1について

講師の赤間達弘氏の若さと強烈な個性に圧倒された。講師と授業担当者である学長との「いき」も合っていてよい雰囲気であった。第二部で学生の代表が講師へ質問する場面で、学長の学生への助言は程良く、適切で、学長の人柄を感じさせる自然なものだった。

設問2について

講師が学生に伝えた「配慮」などの人生訓(?)に、個人的には大いに共感を覚える。しかし、今回の授業形態が受講者

数も含めて、私の担当している授業の形態とあまりにも違っているので、私担当の授業にそのまま参考にするには無理があると感じた。

設問3について

討論会で学生から講師の個性に触れられて良かったとの発言があった。私も学生からそのように評価される授業をしたいと思って日頃授業に臨んでいるが、難しい。

参観者6：京都産業大学理学部

設問1について

この度は、貴大学で開催されました公開授業・検討会について、ネットを通して配信していただき、ありがとうございました。私自身、検討会の時間帯は院生の指導等のため、ほとんど拝見できませんでしたが、授業の方は見せていただきました。

赤間講師は、若さを活かした非常に説得力のある話し方やご自身の作品の説明で、受講生を惹きつけ、教室に熱気をもたらしていることが画面を通して感じられました。また、受講している学生に対して、年齢が近い先輩からのさまざまな助言は、今後の生き方に大きな示唆を与えたことと思います。また、卒業生に対する学長先生の温かい思いやりが、穏やかな表情や発言を通して感じられました。

設問2について

話し方は、若い者でないと真似のできないものですが、その中で度々引用された赤間講師ご自身の経験に基づくお話は、受講生に興味を引き起こさせるために必要な手段の一つであると感じました。

設問3について

FD活動で先駆的な役割を果たされておられる大学における公開授業と検討会が、このようにネットを通して配信していただくと、着手したばかりで、他大学の情報が必要な本学のFD活動の推進に大いに参考にさせていただきます。今後引き続き、よろしく願いいたします。

最後に、ストリーミング配信は映像および音声ともに正常に受信できましたことをお伝えしておきます。

参観者7：学生

設問1について

講師の赤間さんのエネルギッシュな講義が印象的であった。また、厳しいことを言う赤間さんに対して学生(私達)がびびってしまってあまりうまく質問を投げかけることができなくて心残りであった。

赤間さんが強烈なことを言うなかで、学長と赤間さんのかけあいが一服の清涼剤になっていて良かったし、連続的な緊張がなく一息つけてよかった。

設問3について

批判も全て受け止めていく学長の姿や学生や授業のために真剣に議論する先生方に「大人だなあ」と思った。

参観者8：学生

設問1について

赤間さんからいただいたメッセージで「一流はどこからでもなれる」が心に響いた。

設問3について

もっと多くの先生方に参加してもらいたかった。

参観者9：学生

設問1について

配慮の欠落を問題視した発言から始まり、配慮を作品に取り入れることで、アーティストとして成功したという話に帰結して、「配慮」を人生のタイトルとしている赤間さんの生き方を知ることができた。自分の生き方にも参考になると考えた。

設問3について

検討会では、今後のための改善点を山大マインド開講者と批判家が討論しているところが見れて新鮮だった。この検討会には学生も入れて行くと、より多くの改善点が見つかると思う。

検討会関係者の方々の発言も面白かった。特に学長と中村委員の討論は熱を感じた。教育の舞台裏が見れて楽しかった。

他の大学でも是非開講していただきたい講座なので、もっと大掛りに公開授業に取り組んで欲しい。必要とあらばお手伝いします。

来年は3コマ構成で山大マインドを開講し、3コマ目に検討会をしてはいかがでしょうか？

参観者10：学生

設問1について

自分の気持ちをストレートに伝えてくる赤間さんの姿というのがすごく印象的で心に残った。大学生活はただ勉強していればいいという物でなく、さまざまな人とふれ合い、色々な経験を積み重ねていく事もとても大切な事だとわかった。大学に入って2ヵ月程になったが一番感じている事は、大学の生活は何もしなければ時が経つのが早い。自分から行動せねば、あっという間に4年間など過ぎてしまうと思う。充実した生活を送れるように1日1日を大切に行動していきたい

設問3について

初めて検討会というのを見させてもらったが、色々な先生の意見が聞けてとてもおもしろかった。こう言う事を学生が自らやってもおもしろいと思う。授業が終わった後で学生達が、色々意見を出しあいながら、よりよい授業を作っていく事もおもしろいと思う。



2 ミニ公開授業&ミニ公開検討会

ミニ公開授業&ミニ公開検討会登録授業(前期)

授 業 名	担当教員
臨床発達心理学入門(心理学)	佐竹 真次
日本社会の解剖(経済学)	立松 潔
地球表層の科学(地球環境学B)	田宮 良一
教育をディベートで考える(教育・福祉)	江間 史明
成せばなる 21世紀の大問題(総合)	那須 稔雄
自分を創る(教養セミナー)	小田 隆治
ドイツ語 B2	渡辺 将尚
ドイツ語	クリスト・ガスマ

ミニ公開授業&ミニ公開検討会登録授業(後期)

授 業 名	担当教員
新・生命再考(教養セミナー)	小田 隆治
ドイツ語 B	伊藤 貢士
ドイツ語 B	林 雄作

ミニ公開授業・ミニ公開検討会アンケート結果

授業科目名 :

授 業 者 :

公開日時 : 月 日() : ~ :

参 観 者 :

設問1 今回の授業の感想を自由に記述してください。

設問2 今回の授業を公開・参観して、御自身の授業をどのように振り返られましたか。何でも、自由に記述してください。

設問3 ミニ公開授業・検討会はいかがでしたか。何でも自由に記述してください。

【前期】

ミニ公開授業1

授業科目名 : 臨床発達心理学入門(心理学)

授 業 者 : 佐竹 真次(人文学部非常勤講師)

公開日時 : 7月1日(木) 8:50~10:20

授業者のアンケート

設問1について

学生から集めておいた質問カードに対して回答するという形で授業を始めました。その場で学生に質問してもなかなか出てこないなので、質問カードを使いました。自分達の質問に対しての授業のためか、一方向授業のときよりもよく聞いている学生が多かったように思います。

設問2について

公開ということになると、いつ見られてもよいように言葉を精選して話していると思います。指導案(授業案)は作成しませんでした。前日何度かイメージトレーニングをして臨みました。学生への発問を事前に多く用意しておく、授業が盛り上がると思っています。

設問3について

非常勤講師なので視聴覚機器の扱いに慣れる機会が少なく(自分の勤務先のもは熟知しておりますが、場所によって微妙にシステムが異なります)、本当は視聴覚教材を多く利用したいのですが(パワーポイントなど)が、授業がもたつてしまわないように、板書中心です。ビデオは利用しています。プロジェクターの性能は良いのですが、ON・OFFのタイミングが難しいです。

公開授業は教員が授業の構成と表現法を真剣に考えるために必要な取り組みです。

ミニ公開授業2

授業科目名 : 日本社会の解剖(経済学)

授 業 者 : 立松 潔(人文学部)

公開日時 : 7月2日(金) 14:40~16:10

授業者のアンケート

設問1について

教養セミナー改革に向けて、実験的に行われた授業であることから、新しい試みを取り入れ、その都度さまざまな試行錯誤を余儀なくされた。したがって、そのなかの一コマだけの公開で、どの程度授業参観者に理解されたか、不安のあるところである。

設問2について

今回公開したモックインタビュー(模擬記者会見)は、ほとんど全学生が未経験であり、慣れるまでに時間がかかった。3~4週目ぐらいには学生も感触をつかみ、スムーズに進むようになり、達成感も大きかったように思う。学生主体型授業の場合、今回のようにまだ学生が不慣れな段階で公開するのではなく、より成熟度の高い状態を公開した方が、一般の参観者には良かったかも知れない。

設問3について

今回の授業は初めて試みる内容も多かったため、学生の反応などに予想外のことも多く、授業を通じて学ぶ点が多かった。また、公開授業の参観者の意見も直ちに授業改善に取り入れることができ、そういう意味では大変ありがたい機会であった。

ミニ公開授業3

授業科目名 : 地球表層の科学(地球環境学B)

授 業 者 : 田宮 良一(理学部非常勤講師)

公開日時 : 7月13日(火) 8:50~10:20

授業参観者のアンケート

参観者1 : 人文学部

設問1について

通常どおりなので、特に今回の感想はないが、ぜひ定着さ

せてほしい。

設問2について

地球科学関連高校でほとんど地学を学ばなかった学生への授業なので、公開にも自信がなかった。いろいろ意見を聞きたい。

設問3について

はじめてなのでよく分からないが、参観者を授業担当者がさがすのではなく、大学側で設定した方がよいと思う。

制度としては大変よいが、授業者・参観者の検討会も開かないと意味がないと思う。ただやっているという感じである。

(質問の趣旨が1・2・3とも似ており書きにくい)

ミニ公開授業4

授業科目名：教育をディベートで考える(教育・福祉)

授業者：江間 史明(教育学部)

公開日時：7月9日(金) 8:50～10:20

授業参観者のアンケート

参観者1：教育学部

設問1について

・ディベートをくり返すうちに、学生の態度が落ちつき、議論の仕方もうまくなってきていた。体験型学習ではくり返しが効果的と感じた。

・時間を細かく区切ることで、メリハリがついて学生の集中力が持続しやすくなっているようだ。グループを分けたことにも同様のメリットがあるのかもしれない。

設問2について

・以前ゼミでディベートを試みたことがあったが、フォーマットの提示、くり返し等の点で不十分なものであった。

・一般の講義でも(全部は無理としても一部で)方法体得型学習を取り入れてみようと思う。

設問3について

・参観者の人数が適正規模で良いと思う。学生もあまり参観者を意識せずに授業に臨んでいたようだ。

参観者2：教育学部

設問1について

このような授業に初めて参加し、若干とまどいました。論題「住むには田舎より都市がいい」は否定、肯定も立論がしやすく、よいと思いました。「立論」「質疑」「第1反駁」「第2反駁」「講評」「判定」と受講生は忙しくメモし、頭を駆使して積極的に授業に参加しているのが印象的でした。

設問2について

議論をさせるための道具だて、しかけの重要性が理解でき、大変参考になりました。

設問3について

他の先生の授業を初めて参観しました。授業改善に役立てることが可能だと思います。

参観者3：教育学部

設問1について

一方通行型の講義が多い中で学生に何かをやらせる授業

は学生にとって楽しいのではないかと思う。教員、学生とも準備はそれなりに大変だろうが、面白い試みだと思う。

設問2について

自分の授業は一方通行型なので、参加形式をとり入れたいと考えていた。参考になったように思う。

設問3について

とはいえ、学生の参加にはムラがあり、一人でがんばっている学生とほとんど何もしない学生もいれば、うまくチームワークのとれる班もあった。

授業者のアンケート

設問1について

ふだんの授業をそのまま公開した。

幸か不幸か、諸般の事情で忙しくて、とりたてて準備することがなく(できず)公開となった。

設問2について

公開するのはいい意味で緊張感があった。

学生指導のいたらない点などを、あらためて自覚することができた。

設問3について

学生の様子をていねいに見ていただいて、コメントをいただいた。

ビデオを利用してのディベート試合のふり返りなど、今後の授業改善のヒントとなるアイデアをいただいた。

ミニ公開授業5

授業科目名：成せばなる21世紀の大問題(総合)

授業者：那須 稔雄(教育学部)

公開日時：7月26日(月) 14:40～16:10

授業参観者のアンケート

参観者1：学長

設問1について

1) グループによってよく勉強しているところとそうでないところがあるように思う。

2) もっとパソコン等使ったらどうだろうか？

設問2について

こういった学生自主型の授業から学生は何を得て行くのでしょうか？

参観者2：教育学部

設問1について

良かった点

・この授業を通して、履修した学生のプレゼンテーション能力が向上していることがわかった。

・教員の授業に対する熱意が伝わってきた。

・授業がよく設計されていた。

・2人の教員が一緒に授業をすることによって、互いの授業技術を交換している。

・部屋が暗くても、50人の学生全員が起きて、発表を聴いている。

・質疑応答に学生は必死に答えている姿勢がよかった。

・発表内容の中に、講師の意見が取り込まれているのがよかった。

改良した方がいいと思った点

・プレゼンテーション技術(顔を上げること、話す速度と大きさ、スライドの字の大きさと数、図表の出展の明記、レジユメの用意など)をきちんと身に付けさせた方がいい。

・発表会の運営(司会、時間係、準備など)を学生にさせてみては。

総論

・昨年度の蔵王で行われた「FD 合宿セミナー」を契機として開講された授業で、セミナーの主催者の一人としてたいへんありがたく思っています。そして、こんなにrippana授業に育ててくださって感謝しています。「なせばなる……」というように、「なせばなる」を冠に頂いたプレゼンテーション能力を向上させる教養セミナーが草の根で増えて授業群を形成できれば、山形大学の教養教育は一層魅力的なものになっていくものと確信しました。那須先生、野堀先生、FDのお手本を示してくださりありがとうございました。来年は、この授業がもっと多くの先生方に参観されればいいですね。

設問2について

学生のプレゼンテーション能力を伸ばすいい授業に触れて、自分の授業も頑張らなければと思いました。来年度は、私の後期の授業の名称を「なせばなる 生命再考(教養セミナー)」にしようと思いました。

設問3について

今回の授業は、もっと参観者を増やして、大々的に成果を世に問うてもいいrippanaものだと思います。プレゼンテーション能力を開発する授業の開講に疑義のある教員は、是非とも来年のこの授業の公開授業&検討会に参加して、議論していただきたいと思います。

ミニ公開授業6

授業科目名：自分を創る(教養セミナー)

授業者：小田 隆治(教育学部)

公開日時：7月7日(水) 14:40~16:10

授業者のアンケート

設問1について

今年の作品には演劇がないので、市民の前で有料の発表会を2時間も打つことは難しいと思ったが、学生は発表会をしたいと言い、それに向けて頑張っている。

グループ内の結びつきは強いが、グループを超えての交流が少ないようだ。それに、全体を引っ張っていくリーダーが不在である。

毎年、音がうるさいので、中間発表をする場所に困るが、今年はずれの日が多かったので、運動場でできたのはよかった。

設問2について

学生主体型授業や学生参加型授業には、多様なバリエーションがあり、これはその一つのあり方である。こうした授業を運営することによって、授業者にも授業の引き出しが多くなったように思われる。

設問3について

いつも同じ面子ではなく、面識のない人に参観者してもらって、新鮮味を出す必要があるようです。



ミニ公開授業7

授業科目名：ドイツ語 B2

授業者：渡辺 将尚(人文学部)

公開日時：7月6日(火) 10:30~12:00

授業参観者のアンケート

参観者1：人文学部

設問1について

教室がよくまとまっており、学生諸君もほとんどまじめに鉛筆を動かし、口を動かしていた。外国語学習の基本が保たれていることに感心した。(最近この点について困難をおぼえることがあるので。)またパワーポイントを使用して、学生の興味をひく工夫もよかった(あきさせない)

設問2について

授業の都合で20分ほどしか参加できなかったのでよく分からないが、しかし教室をひとつにしようという努力は参考になった。(たとえば学生書き込みの座席図などで名前の確認)

設問3について

パワーポイントの使用の意味がよくわからなかったが、あとで説明してもらった。

他大学のドイツ語の先生に見てもらうこともよいと考えます。

参観者2：人文学部

設問1について

黒板の代わりにスクリーンを使っているのはわかり易くていいと思う。

設問2について

ゆっくりていねいに進めている印象を受けたが参考にしたい。

設問3について

黒板には何度も書いたり消したりしなければならない時に、字が読みにくい等の指摘があることがあるが、あらかじめポイントを準備してスクリーンに写し出せるのは大変好都合とは思いう。

参観者3：教育学部

設問1について

後半の問題演習で答える学生の声が小さく、全体に聞こえにくいようであった。学生と教師のやり取り、解説がクラス全員に十分行き渡るように配慮するとよいように思えた。但し受講者が多いので、肉声だけでは難しいかも。

パワーポイントはOHPより便利なのでしょうか？

設問2について

自分の授業の受講者は少なめなので、一人一人の学生とのやり取り(練習問題や質問・指導など)が多く、学生の理解度の把握もし易く思われる。外国語の授業での適性クラス規模についても考えさせられた。

設問3について

自分の授業が同じ時間帯にあったため、後半のみの参観となったが、できれば関心のある者が参加し易い時間帯(7・8校時=学生の理解も必要となるが)にやることも検討して欲しい。

参観者4：教育学部

設問1について

メリハリの利いた授業者の声と適度にスピーディーな授業であることが、何よりも印象的でした。時間配分が工夫されていたためか、授業の密度が濃くても学生が90分熱心にとりくむ態度をとりつづけていたように思います。非常に良い授業でした。

今回はペンタブレットを用いてPCをOHPのように使っていました。学生にノートをきちんと取らせる上での有効な試みであるように思います。

設問2について

つい文法や語法の説明が長くなりがちになっている点に気づかせられました。ある程度の人数を引っ張っていく上でのテンポや間合いなども良い参考になりました。

語学でのPCの利用は手探りの点が多く、準備する側の空回りにならないか気になっていましたので、学生の視点から眺めることができ、提供の仕方などとり入れられる点はとり入れたと思います。

設問3について

ためになり良かったと思います。ただ無言の強制とならないよう持ち方について今後とも十分配慮していく必要はあるかと思えます。

授業者のアンケート

設問1について

先生方だけでなく、他のドイツ語の授業を履修している学生(20名弱)にも参観してもらいました。授業終了後、その学生たちからも客観的で大変興味深い意見を聞くことができました。

設問2について

今回の授業では、ドイツ語の文をスクリーンに映し、そこに手書きの書き込みを加えながら説明するという方法を試みました。この方法に関して、他の先生方の意見を聞くことにより、利点と欠点がよく理解できました。

設問3について

ある1つの授業を批評しあうというよりは、これをきっかけにして、各教員が日頃からドイツ語教育について考えていることを語り合う場になってきました。私自身、たいへんよい傾向だと思っています。

ミニ公開授業8

授業科目名：ドイツ語

授業者：クリスト・カゴシマ(人文学部)

公開日時：6月22日(火) 13:00~14:30

授業参観者のアンケート

参観者1：人文学部

設問1について

100人を超える受講者にもかかわらず、ほとんどの学生が出席していました。小テストや宿題によって学生のモチベーションをうまく高めている授業だと感じました。

設問2について

後半になると退屈している学生が度々見受けられました。テレビで育った今の学生達には、授業のテンポのよさも重要な要素だと思いました。

設問3について

検討会で、クリスト・カゴシマ先生から教室内の雰囲気を良く保つことに非常に気を配っていると聞きました。大変参考になる意見でした。

【後期】

ミニ公開授業9

授業科目名：新・生命再考(教養セミナー)

授業者：小田 隆治(教育学部)

公開日時：1月19日(水) 14:40~16:10

授業者のアンケート

設問1について

今年の授業で工夫した点は、発表の評価表を作成し、発表後に学生全員に評価させたことである。こうしたことによって、発表時間(20分)の厳守と、発表内容と発表技術の向上を図ることができた。

今年は、人文学部の4年生が履修し、この学生がTAのように働いて、私をサポートして授業を盛り上げてくれた。彼の貢献度は大である。

設問2について

発表の評価表に挙げた項目によって、発表者がどういうことに注意して発表すればいいかがわかるようにした点はよかった。

設問3について

いつも同じ面子ではなく、面識のない人に参観者してもらって、新鮮味を出す必要があるようです。



ミニ公開授業10

授業科目名：ドイツ語

授業者：伊藤 貢士(教育学部)

公開日時：12月17日(金) 10:30～12:00

授業参観者のアンケート

参観者1：人文学部

設問1について

教室が非常によい雰囲気でした。教員と学生の一体感を感じました。これは、伊藤先生が4月からずっと学生との間で築いてきたものだと思います。

設問2について

ドイツ語の文を感情を込めて発音させるなど、より実践を意識した教授法は大変参考になるものでした。

設問3について

今回の伊藤先生の授業によって、ドイツ語専任スタッフのほぼ全員が公開授業を実施したことになります。

他の先生方の授業を参観していく中で、同じ「ドイツ語」という枠組みで授業をしていますが、教員のちょっとした工夫次第で全く違ったものになり、さらに発展させていけるということに改めて気づかされました。

参観者2：人文学部

設問1について

きちんと組み立てられた授業で、大変参考になりました。私語する学生がいなかったのは驚きました。(居眠りはいましたが、快適な暖房のせいでしょう。)まだクリスマス、正月という身近なテーマを取り入れていたのはよかった。おわりのドイツ語のあいさつも全員でよかった。

設問2について

明朗な声で、きちんとしている授業の運び方は、自分の<その場行きあたり>的なものとは対照的で考えさせられました。学生諸君も極端に教室の奥にひっこんではいなくて - よく見られる現象なのに - 中ほどから前方に座っていた。学生諸君にどのようにしたら前方に来てもらえるのか教えてもらいたい。

設問3について

公開授業は双方にとって参考になること大であることがあらためて確認できました。

ミニ公開授業11

授業科目名：ドイツ語

授業者：林 雄作(人文学部)

公開日時：11月19日(金) 8:50～10:20

授業参観者のアンケート

参観者1：人文学部

設問1について

皆授業に集中しており、モチベーションの高い学生が集まっているという印象をもちました。

設問2について

問題演習の際、黒板に学生の答えを書かせていました。口頭で答えさせるのと比べて、一長一短はあると思いますが、自

分の授業にとり入れてもよいかと思いました。

設問3について

毎回何らかの得るところがあると思います。

